

## 日本語指導 ワークショップ

井上 恵子

### 1. ねらい

児童生徒の発達段階と日本語力に応じた「日本語指導略案」を作成する。

### 2. グループ及び課題

グループ	日本語力	対象	課題及び教材
A	日本語が全く話せない児童への指導	小学生 高学年	にほんごを まなぼう 3課「きいて みましよう」
B	ある程度日常会話ができる児童への指導	小学生 低学年	こどものにほんご 1 10課「かいものごっこ」
C	ある程度日常会話ができる児童への指導	小学生 中学年	日本語を学ぼう 2 14課「何倍でしょう」
D	JSLカリキュラム（トピック型）を使った指導	小学生 高学年	「トピック」 千葉県について
E	JSLカリキュラム（教科志向型）を使った指導	小学生 中学年	「国語」教育出版 3年上 「森のスケーター やまね」
F	日本語が全く話せない生徒への指導	中学生	中学生の日本語 4課「ラウルくんは 朝 6 時に 起きます」
G	ある程度日常会話ができる生徒への指導	中学生	JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE 38課 しゅくだいを しな ければ なりません
H	JSLカリキュラムを使った指導	中学生	「理科」大日本図書 中学校2上 顕微鏡の使い方

### 3. ワークショップの進め方

時 間	活 動 内 容
11:50～12:00	1. ワークショップの進め方についての説明を聞く。 ・ねらい ・グループ分け ・課題 ・時間配分 ・指導略案の作成方法及び留意点 ・発表方法 ・パソコン
13:00～15:00	1. グループに分かれて、課題についての指導略案を作成する。 (パソコンの「指導略案の形式」に書き入れる) 2. 発表の準備をする。
15:10～16:10	1. グループ発表をする。 6分×8グループ (講評)

### 4. 指導略案作成上の留意点

- (1) 指導時間は小学校45分、中学校50分とする。
- (2) なるべく、4技能(聞く・話す・読む・書く)を入れる。
- (3) 過程の欄の( )に時配を入れる。
- (4) 必要に応じて、日本語力に合わせて「リライト教材」を作成する。
- (5) 必要に応じて、補助資料として「翻訳教材」を活用する。
- (6) 必要に応じて、補助者との連携を図り、補助内容を明記する。
- (7) より分かりやすく、そして楽しく指導するための「教材・教具」を作成し、提示の仕方等、工夫する。

## 日本語指導略案

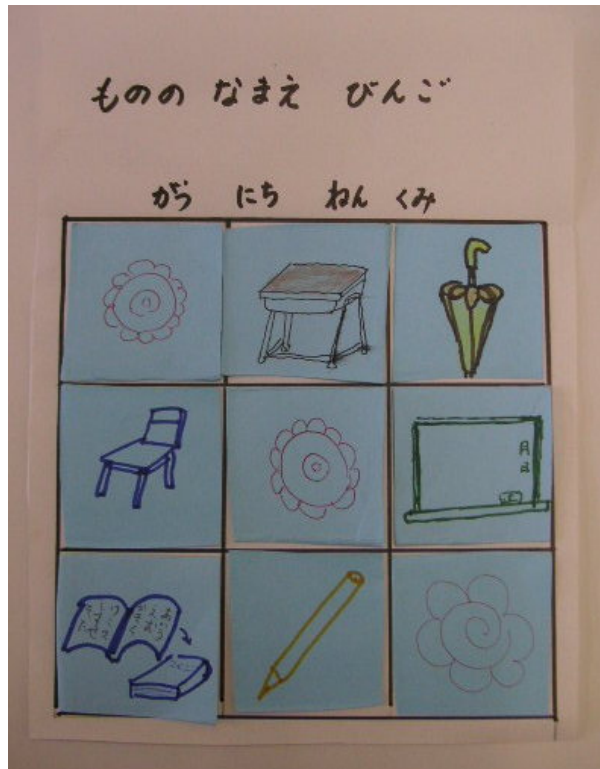
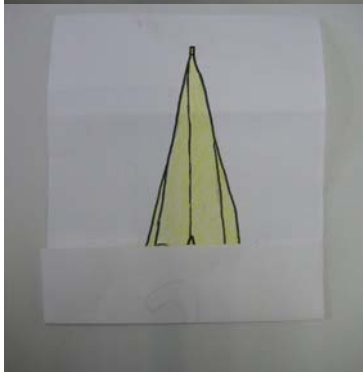
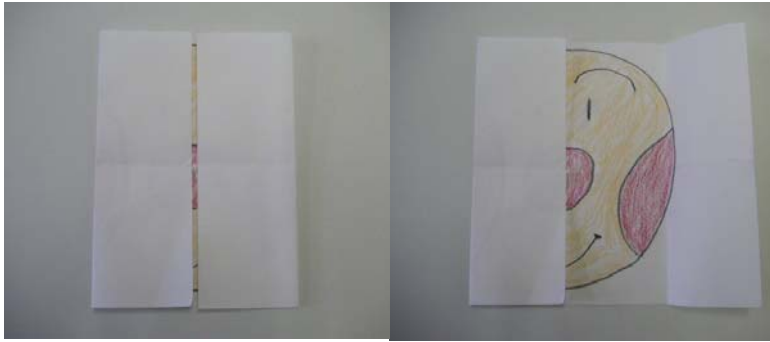
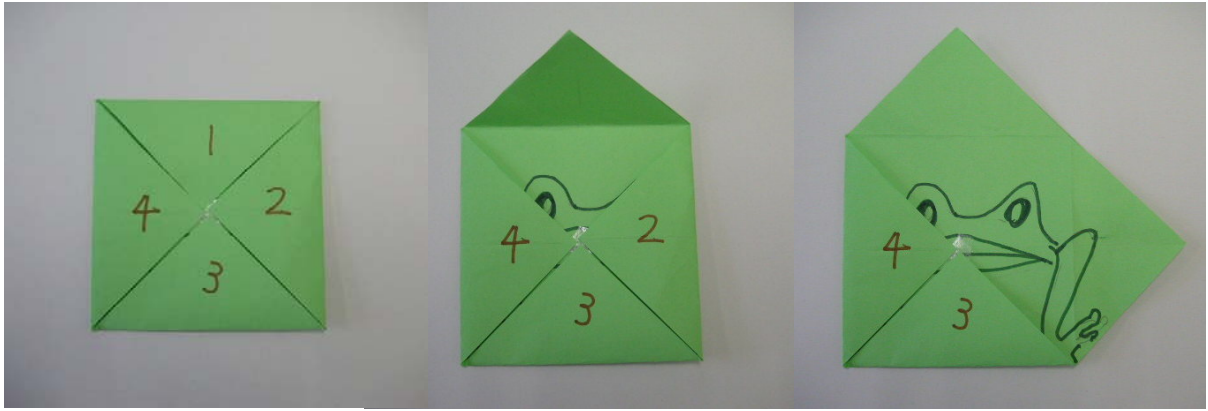
グループ	日本語力	対象	課題及び教材
A	日本語が全く話せない児童	小学生 高学年	にほんごを まなぼう 3課「きいて みましよう」

1. 目標 教室の中にある物を中心に、ものの尋ね方や色、数等の基本的な用語を理解し、表現できるようにする。

### 2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (5)	1. ものあてクイズをする。 「具体物や絵の名前」 ・ 消しゴム ・ えんぴつ ・ その他教室にあるもの	・ 興味をひくように具体物や絵を提示する。 ・ 最初は普通に提示し、慣れてきたら布で隠したり、音だけを聞かせたりして答えさせる。	具体物、絵など
展開 (35)	2. ものの名前の聞き方を知り、お互いに質問し合う。  ・「これはなんですか？」 ・「これは□□です。」  ・「あれはなんですか？」 ・「あれは□□です。」  ・「それはなんですか？」 ・「これは□□です。」  3. ものの名前の読み方を確かめる。	・ 児童の興味をひく具体物を提示し、意欲を高める。  ・ 慣れてきたら教師と子ども、または子ども同士で質問し合う。  ・ 個に応じてワークシートに記入させる。	にほんごを まなぼう (翻訳版) ワークシート
終末 (5)	4. ビンゴゲームをする。 本時で知ったものの名前をビンゴゲームで確認する。	・ ゲームを通して本時の復習をし、飽きずに覚えることができるよう支援する。	ビンゴ 絵カード

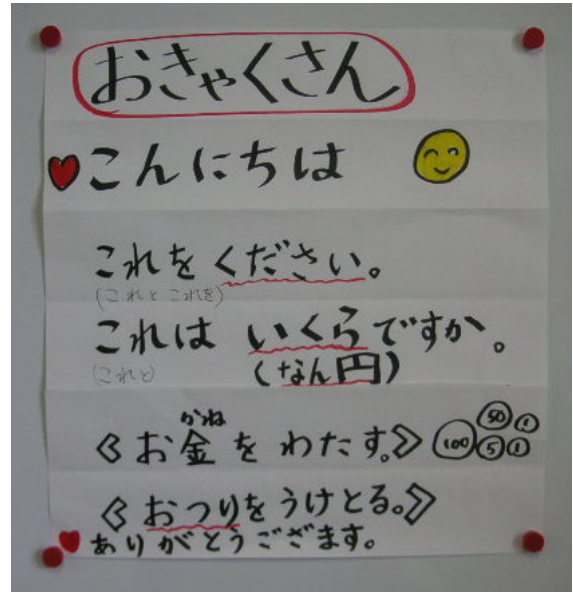
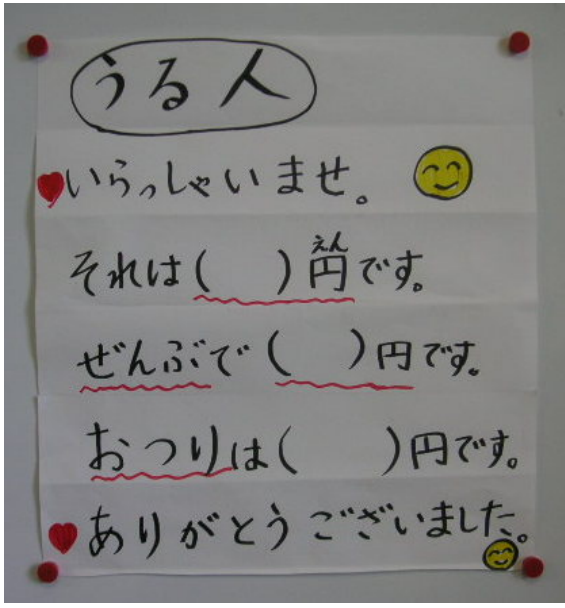
作成した教具等





<p>展開 (30)</p>	<p>6. 売る人と買う人に分かれて買い物ごっこをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・店側の人と買う側の人<sup>が</sup>買物に使う言葉を使って買い物のやり取りをする。</li> <li>・(買う人) 品物の値段でお金をわたす。</li> <li>・(売る人) おつりがある場合は計算しておつりと品物をわたす。</li> <li>・交代する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵カードに値段シールを貼ったり、買い物バッグを用意したりして、楽しく買い物ごっこができるように準備をする。</li> </ul>	<p>品物(文房具の絵カード) 模型のお金</p>
<p>終末 (5)</p>	<p>7. 買い物ごっこをしたことを話したり、書いたりする。 例) 消しゴムは、2個で100円で</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示してある「キーワード」を確認しながら話したり、書いたりするよう、支援する。</li> </ul>	<p>ワークシート</p>

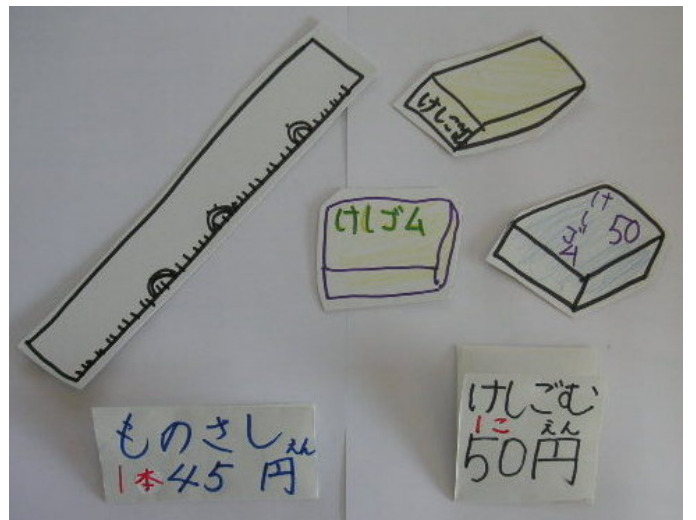
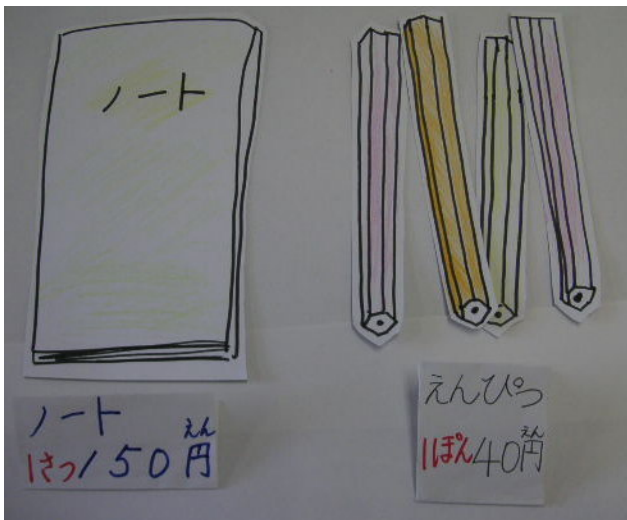
作成した教具等





いらしゃいませ  
 ～をください  
 ～はいくらですか  
 せんぷで○円です  
 おつりは○円です  
 ありがとうございます

Tuloy po kayo.  
 Pabiling \_\_\_\_\_  
 Magkano ang \_\_\_\_\_?  
 \_\_\_\_\_ yen lahat.  
 Ang sukli mo ay \_\_\_\_\_  
 Maraming salamat.



## 日本語指導略案

グループ	日本語力	対象	課題及び教材
C	ある程度日常会話ができる児童への指導	小学生 中学年	日本語を学ぼう 2 14課「何倍でしょう」

1. 目標
- ・何倍、棒グラフ（算数3年）の学習に必要な表現を理解する。
  - ・～したら（すれば）・・・である、という表現を理解する。

### 2. 展開

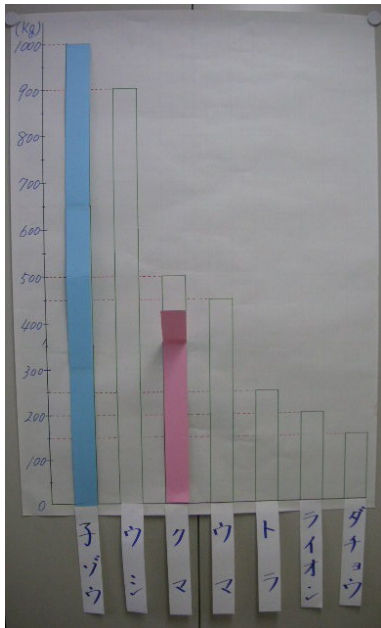
過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (5)	1. 新出語（動物の名前）を理解する。 ・声に出す。 ・絵を見て、名前と照らし合わせる。	・一緒に声に出しながら発音させるようにする。	動物の絵
展開 (35)	2. それぞれの動物の重さを理解する。 ・ゾウが 1000kg ・クマが 500kg ・ライオンが200kg 3. 学習問題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">動物の重さ比べをしよう。</div>	・重さを視覚的にわかるように紙テープで表す。	紙テープ 棒グラフ
	4. グラフと紙テープをてらし合わせ、重さを棒グラフで理解する。 5. 動物の重さ比べをする。 ・ゾウとクマの紙テープを比べ、重さを比べる。 →ゾウの重さはクマの重さの2倍だ。 ・ライオンとゾウの重さを比べる。 →ゾウの重さはライオンの重さの5倍だ。	・2本のテープを隣り合わせにして比べさせる。 ・クマのテープの長さのものを2本用意して、ゾウはクマの重さの2倍になっていることに気付かせる。	
終末 (5)	6. 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">ぼうグラフを見れば、動物の重さを比べることができる。</div>		
	・たら（れば）・・・であるの表現を理解する。 ・次時の予告を聞く。	・次時は、文作りをすることを知らせる。	



板書計画

動物の重さ比べをしよう。

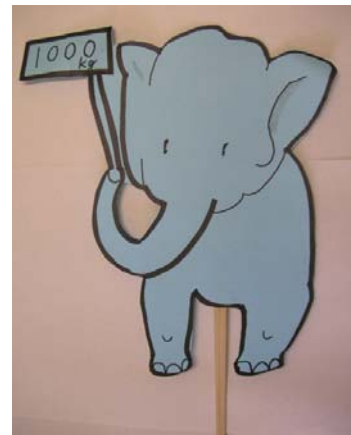
棒グラフ



ゾウの重さは  
クマの重さの2倍

棒グラフを見れば、動物の重さを  
比べることができる。

作成した教具等



## 日本語指導略案

グループ	日本語力	対象	課題及び教材
D	JSLカリキュラム（トピック型）を使った指導	小学生 高学年	「トピック」 千葉県について

1. 目標 千葉県に関する基礎的情報を理解し、母学級における社会科の学習に進んで参加しようとする態度を育む。

### 2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (10)	1. 千葉県の特産品を知る。 A-1「〇〇を知っていますか。」 A-4「〇〇を食べたことがありますか。」	・特産品について興味を持たせる。 ・取れた場所（作られた場所）を地図で確認する。	特産品 例)ピーナッツ、すいか 千葉県地図 日本地図
展開 (30)	2. 千葉県の特産品や名物について、経験を話し合う。 A-4「〇〇を見たことがありますか。」 A-4「〇〇に行ったことがありますか。」  3. 特産品や名物を白地図に記入する。 ・しょうゆ ・なし、びわ ・ディズニーランド ・成田空港	・児童の経験や興味を事前に把握しておき、写真やカードを準備しておく。  ・ワークシートを用意し、特産品や名物を文字で記入させる。 例) 〇〇を見たことがあります。〇〇に行きました。	写真 カード（文型・言葉）  白地図（掲示用） ワークシート
終末 (5)	4. 次時の学習について知る。 「千葉県の特産品や名物について調べていこう。」	・特産品や名物について興味をもたせる。	

## 日本語指導略案

グループ	日本語力	対象	課題及び教材
E	JSLカリキュラム（教科志向型）を使った指導	小学生 中学年	「国語」教育出版3年上 「森のスケーターやまね」

1. 目標 やまねとはどんな動物かを読み取ることができる。

2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (7)	<p>1. やまねの写真を見て感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいい</li> <li>・ねずみかな</li> <li>・りすかな？</li> <li>・知ってる～</li> </ul> <p>2. 学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     やまねについて くわしく 知ろう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2枚のやまねの写真を提示し、興味関心を引き出す。</li> <li>・ やまねであることを知らせる。</li> </ul>	やまねの写真2枚
展開 (33)	<p>3. 本文の範読をきく。</p> <p>4. やまねについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段落ごとの要点を押さえ大事なところに線をひく。</li> <li>・ ワークシートにまとめる。</li> <li>・ まとめたことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明文である構成を意識し、段落ごとの関係をおさえながら読む。</li> <li>・ 小段落ごとに写真や地図と照らし合わせながら補足説明をする。</li> <li>・ 「いつ」「どこ」等の」質問を投げかけ要点をつかませる。</li> <li>・ 線を引いたところに着目させ、できるだけ自力で記入させる。</li> <li>・ 内容を読みとれていたら賞賛する。</li> <li>・ 大事なところをおさえることができたか。（評価）</li> </ul>	リライト教材  地図 写真  ワークシート

終末 (5)	5. 本文を音読する。 ・ 1回目は教師と、2回目は自力で音読する。  6. 次時の学習について知る。	・ 大きな声ではっきり読むように助言する。 ・ 一人で読めたことを賞賛する。	
-----------	--	---	--

### 作成した教具等

#### 「森のスケーター やまね」リライト教材

<p style="text-align: center;">森のスケーター やまね</p> <p>「やまねを していますか？」くわしく している 人は  <small>すく</small> 少ないでしょう。</p> <p>やまねは、大むかしから 日本に すんでいる どうぶつだと      かんがえられます。いまは、<small>ほんしゅう</small>本州、<small>しこく</small>四国、<small>きゅうしゅう</small>九州と <small>おき</small>隠岐のし      まの 森に すんでいます。</p> <p>やまねの 体は、およそ 八センチメートルです。しっぽは、      やく 五センチメートルで、毛が <small>け</small> ふさふさして います。</p> <p><small>たいじゅう</small>体重は、十八グラムほど です。木の上で 生かっして いま      す。ひるまは 休み、よるに になると うごきまわります。</p> <p>やまねの なかまは、ヨーロッパ、ロシア、アフリカ、中おう  <small>ちゅうしやく</small>アジア、中国などにも います。ロシアでは やまねの こと      を「ソーニャ」と います。「ねむそうな人」といういみです。</p> <p>イギリスでは 「ドウマウス」と います。「ねている ねず      み」という いみです。中国では 「シュイシュ」といい、「ね      むる ねずみ」と います。せかいじゅうで、よく ねむる ど      うぶつだと おもわれて いるのです。</p>
--

※ 縦書きの場合はルビを左側に、横書きの場合はルビを下につけて、隠しながら指導する方法もあります。



## 日本語指導略案

グループ	日本語力	対象	課題及び教材
F	日本語が全く話せない生徒への指導	中学生	中学生の日本語 4課「ラウルくんは 朝 6時に 起きます」

1. 目標 一日の活動を時間と共に話したり、書いたりすることができる。

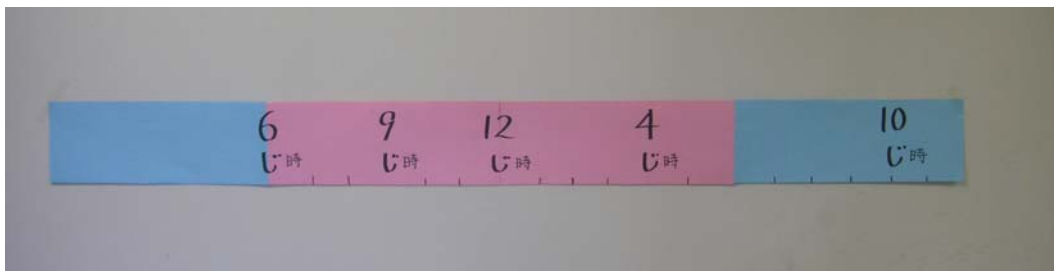
2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (10)	1. 「ラウルくんの1日」を読む。 ・ 時間の言い方（復習） ・ 起きます、寝ますの言い方 ・ 動詞の過去形・否定形 ・ 起きました・起きません ・ 時間の言い方の練習	・ 帯時計を使って、時間の言い方の確認をする。	帯時計
展開 (35)	2. 1日の中で使用する動詞を使って文を作る。 例) 6時におきます。 6時5分にパジャマをぬぎます。 6時10分にふくをきます。 6時15分にかおをあらいます。 6時半/30分にごはんをたべます。 6時50分にはをみがきます。 7時にくつをはきます。 9時にべんきょうをします。 ⋮ 4時にテレビをみます。 10時にねます。  3. 学習者の1日について話す。 ・ 問いに答えられるようにする Q：何時に起きますか。 A：6時に起きます。	・ 学習内容に興味を持ってもらえるように、時計や絵カードを用いて支援する。  ・ 半・30分など、1つの時間を2通りの言い方で言えることを理解させる。  ・ ラウルくんの1日で使用した「動詞」を使って問いかけをする。	帯時計 時間のカード  時計  絵カード



終末 (10)	4. ワークシートに学習者の1日を記入する。	・正しい表現を用いて記入できるように支援する。	ワークシート
------------	------------------------	-------------------------	--------

作成した教具等



## 日本語指導略案

グループ	日本語力	対象	課題及び教材
G	ある程度日常会話ができる生徒への指導	中学生	JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE 38課 しゅくだいをしなければなりません

1. 目標 「～なければなりません」と「～なくてもいいです」の使い方がわかる。

### 2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (5)	1. 教材の「KEY SENTENCES」を読む。 ・「します」と「しなければなりません」の違い	・教師が読んで、生徒が後に続くようにする。	
展開 (40)	2. 動詞の活用の復習をする。 ・(ない形)を言う ・ワークシートに(ない形)を記入する。 ・いつも学校に8時に(来ます)  ・校外学習の日は7時に(来なければなりません)  ・「なくてもいいです」を使って土曜日は学校に(来なくてもいいです)  3. 絵カードを使い、文を作る ・口頭練習	・I、II、IIIグループ別に動詞カードを提示する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">なければなりません</div> のカードを提示する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">なくてもいいです</div> のカードを提示する。  ・絵を手がかりにどちらの表現を使うか考えて文を作るよう、促す。	動詞カード
終末 (5)	4. ワークシートを使って、学習のまとめをする。	・日常生活の中で、よく使う表現なので、ニュアンスの違いを理解させるようにする。	ワークシート

作成した教具等

ない形から作れる文型 ぶんけい

	a. <small>ます形</small>	b. <small>ない形</small>	c. <small>なければなりません</small>	d. <small>なくてもいいです</small>
(イ)	書きます			
(ロ)	食べます			
(ハ)	します			
(ニ)	きます			

なくてもいいです

なければなりません

<small>ぬ</small> 脱ぐ	<small>おぼ</small> 覚える
<small>た</small> 食べる	<small>い</small> 行く
<small>の</small> 乗る	<small>み</small> 見る

<small>はら</small> 払う	<small>き</small> 聞く
<small>だ</small> 出す	<small>く</small> 来る
<small>よ</small> 読む	<small>か</small> 書く

<small>お</small> 起きる	<small>ね</small> 寝る
<small>べんきう</small> 勉強する	<small>しゅくたい</small> 宿題をする

## 日本語指導略案

グループ	日本語力	対象	課題及び教材
H	JSLカリキュラムを使った指導	中学生	「理科」大日本図書 中学校 2 上顕微鏡の使い方

1. 目標 日本語を通して顕微鏡の使い方を身につける。

2. 展開

過程	学習活動	教師の支援	資料・教具
導入 (10)	1. 花粉とその拡大写真を見る。 ・顕微鏡を実際に見て操作する。 ・顕微鏡の目的を体感する。 2. 学習課題をつかむ。 「顕微鏡の使い方を身に付けよう。」	・実物と拡大の比較をさせる。 ・顕微鏡を実際に操作させる。	花粉と拡大写真 顕微鏡
展開 (35)	3. 顕微鏡を使って、自分で何を見てみたいか考える。 4. 資料（リライト教材）を実際に読む。 ・読めない字にルビをつける。 ・資料を再度、音読する。 ・読んでわからない語句を辞書で調べる。訳を書く。 5. 使い方の確認についての発問に答える。	・どんなものを見ると興味が高められるか、例をあげる。 ・読めない字を教え、ルビをつけさせる。 ・確認のために音読させる。 ・母語の話せる補助者がいる場合は、直接支援する。 ・辞書を引いてもわからない語句の説明をする。 ・顕微鏡を指して用語や使い方を簡単な発問をして、確認させる。	実物 リライト教材 顕微鏡
終末 (5)	6. 資料を読んで理解したことをもとに「自分が見たいと考えたもの」を顕微鏡で操作して拡大する。	・正しく操作できているか確認しながら操作を援助する。	顕微鏡 実物